

平成 30 年度沖縄県認知症支援推進事業
若年性認知症支援者研修会 宮古島市開催 報告書

1. 研修会名：「平成 30 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 若年性認知症支援者研修会」
2. 日時：2018年6月11日（月）13時～16時半（受付12時半）
場所：下地農村環境改善センター 定員70名程（先着順）
3. 目的：広く若年性認知症について啓発を行うと同時に支援者へ研修を行うことで、若年性認知症の一人ひとりがその状態に応じた適切な支援を受けられることを目的とする。

4. プログラム

受付開始：12時半 研修開始13時 終了16時半

	開始時間	終了時間	内容	所要時間	講師
1	13:00	13:05	主旨説明	5分	事業担当
2	13:05	14:20	沖縄県の現状と制度について	75分	若年性認知症支援コーディネーター
	14:20	14:30	休憩		
3	14:30	15:20	活躍の場について	50分	大府センター監修DVD（司会 若年性認知症支援コーディネーター）
4	15:30	16:30	若年性認知症の病態と支援について	60分	認知症疾患医療センター長 竹井太先生
	16:30		終了		
	16:30	17:00	アンケート回収・撤収		

5. 広報

新オレンジサポート室発信：

チラシ郵送 5/7 県内 541 件

沖縄県発行 沖縄県認知症対応機関団体等リスト全カ所

FAXでの案内 専門職団体 2カ所

沖縄県介護支援専門員協会、（一社）沖縄県グループホーム連絡会

県高齢福祉課発信：FAX 宮古島市介護保険領域事業所

申し込み締め切り 6/4（月）

申し込み者 34名

6. 当日の様子	当日参加者数	28名
内訳	介護家族	2名
	医療	0名
	介護保険事業所	16名
	行政	5名
	労働・企業	2名
	一般	3名

7. 講義内容

1. 沖縄県の現状と制度について：H29年度若年性認知症支援コーディネーターが配置されたあとの相談内容から、1年間に把握された沖縄県の特徴について報告する。事例を通して、制度の利用について紹介する。
2. 認知症介護研究・研修大府センター監修DVDの視聴：活躍の場について
3. 若年性認知症の病態と支援について：宮古島市認知症疾患医療センター長、医師竹井先生より、若年性認知症の病態と宮古島市の現状並びに支援について報告。

8. 研修資料について

テキストは『本人・家族のための若年性認知症支援ハンドブック（沖縄県）』各講義枠で準備されたスライドは、1. 沖縄県の現状と制度についてのみ配布。その他の資料配布なし。
参加費は無料。

9. アンケート結果 回答 23名 回収率 82.1%

問 本日の内容について感想を教えてください

	よかった	ふつう	よくなかった	無記入（部分的）
県内事情	78.3%	21.7%	0%	0%
DVD 視聴	60.8%	4.3%	0%	26.1%
病態	56.5%	8.7%	0%	34.8%

問 みなさまの地域で、若年性認知症の方々の支援が充実するために、今後、どのような取り組みが必要とお考えですか？

（看護師）

- ・コーディネーターのようなサポーターの育成
- ・未病になるよう生活習慣を整える

(相談支援専門員)

- ・若年性認知症について、医療機関、ケアマネ、相談支援員、行政が連携して、勉強会や情報交換会しながら理解と周知をしていくことが必要
- ・他人ごとでなく、身近なこととして取り組んで行く体制づくりが大切
- ・各関係機関が適切に支援をつなげ、連携していく。そのためには研修、普及啓発活動の実施が重要と考える
- ・現在、障害と高齢で「支援連携会議」で若年性認知症の課題もでている。今後増えて行く支援だと思う。

(行政)

- ・ケアマネや障害の相談員、就労A Bの職員にも、今日話を聞いて欲しいと感じた
- ・支援者ばかりが集まってしまう。家族主導でやっていくためにどうしていいか、病院間でルートがつかれないか？
- ・若年性認知症、高次脳の方の行き場がない
- ・家族がかかりつけ医に疾患センターに紹介してとは、なかなか言えない
- ・早期発見のための初期症状のチェックリストを医療機関や公共交通機関、職場等へ掲示する
- ・診断後は職場や家族等周囲へサポートする方法、特性について理解してもらうためにパンフレット等を配布する。そして宮古バージョンの1枚ペーパーの連絡体制図があるとよい
- ・当事者やご家族に支援や情報が届けられる仕組み作り

(一般)

- ・経済的支援、権利擁護についての支援が具体的に説明されていて、良く理解できた。障害福祉と介護保険の適切な利用が必要なことが実感できた
- ・若年性の場合、高齢者と比べ、子供の支援や家族全体への支援が多岐に渡ることが認識できた

(介護保険領域)

- ・宮古島市にも支援センターの設置が必要
- ・利用出来る制度を知る
- ・関係機関との連携
- ・医療機関での受診、適切や診断
- ・受け皿（居場所づくり、家族会など）
- ・何よりも地域住民が疾病に対する意識を高めること
- ・医療職、介護職のみならず、様々な他職種の方々にも認知症について理解してもらう
- ・支援する側の制度への理解、知識を高めていくこと
- ・本人や家族が相談や気軽に話が出来場所をつくる
- ・ボランティアの育成
- ・安心できる場所づくり
- ・つながり
- ・バレーボールやゲートボールなどのレクレーション大会を開催する
- ・他職種連携は大変だなと感じました
- ・交流の場を設ける

- ・認知症の人は、周りの人達のサポートが必要
- ・もっとみんながこのような研修の場に参加して、若年性認知症の実態、理解を深めて欲しいとおもった
- ・公表してみんなで支え合うことが大事だと思った
- ・身近に若年性認知症の方はいませんが、何かしらのサポートが出来る事があれば手伝いたい。見守りはしていきたい
- ・金銭的な助成（とくに子供のいる家庭）
- ・保険証切りかえ時にチェックシートなど、明確にするシステム
- ・病気の誤解受入れ
- ・居場所、安心できる空間
- ・認知症発症後の経済的支援をスムーズに出来るように窓口が必要だ
- ・全国的にコーディネーターの配置や人数や、今のこの宮古島市の状況をあらためて知ることができ、良かった
- ・親戚、近所など、周りの方に公表することは、とても大事なことだと思った

主催者の所感：

本日の研修 3 枠で、疾患センター長より、島民の生活習慣病の数と傾向について報告があり、生活習慣病と認知症発症リスクを考えると、島民の今後の認知症支援は大変大きな課題となることが告げられた。診断機器の進歩のなか鑑別診断が勧められるなか、離島における医療の限界や専門職の数の問題（臨床心理士は島内に 1 名のみ）、島民の健康基盤の違いなど、県外や沖縄県本島の現状とはまた違う、宮古島市の現状について考えさせられる情報交換の場となった。日中の暑さ、日没の長さを考えると「運動をしましょう」といっても、早朝や日没後でなければ歩けない気候的な影響など、働く世代の健康管理についても、施設整備が必要な離島の課題を知る。鑑別診断についても、早期介入には本島への旅費がかかる現状、医療機器に頼らずエピソードより鑑別診断を進めるには、既に進行した初期の後期、中等度の初期という時期になってしまう現状など、「そもそも論」を知る情報交換となった。しかしながら、働く世代の認知症は、多岐に渡る課題を抱えることから、その支援は早期より開始されることが望ましい。離島の現状をさらに把握、次年度に向けての検討に組み込むうえでも、今後も宮古島市の皆様と、情報交換行ないながら、認知症支援について考えを深めて行きたいと考える。

人口 10 万人に対して若年性認知症の方は 47.6 人とされていることから、55,000 人の宮古島市では 26.1 名の存在はあるであろう。昨年 1 年間に沖縄県若年性認知症相談窓口寄せられた当事者の数 75 名のうち、宮古島市のかたは 2 名であった。その他の方々が現在、どのような支援をうけ、どのように生活されているのかについて懸念され、今回 3 日間の相談会開催とした。相談会の結果をふまえ、今回参加頂いた行政のみならずとも今後について、そのような開催が多くの方に利用頂けるのか、一人一人の支援が行き渡るにはどう体制づくりをしたらよいのか、相談しながら模索していきたい。以上